

阿権溪谷

この谷は、その裂け目に近代的な橋が架けられるまで、阿権集落と島内の他の地域とを隔てていた2つの深い溪谷のうちのひとつです。（もうひとつは鹿浦溪谷です。）阿権川は、阿権集落を通り、この谷を下った後、阿権の滝を流れ落ちて海に注ぐまで、5 km にわたって蛇行しています。20世紀半ば、この溪谷にあった工場は、芳香剤や虫除けとして使われる樟脳を加工していました。その後、工場は営業を停止し、その場所は森林の急速な成長によって再び自然に還されています。珍しい植生や多種多様な動物が分布するこの一帯は、今日、日本の国立公園指定区域の一部として保護されています。この地域では、花をつける常緑樹で先史時代に見られた植物に似ているクロツグの木立や、リュウキュウアカショウビンをはじめとする色鮮やかな鳥類などが見られます。

通学中の冒険

この道を半分ほど進んだ左手に、茂った植物に覆われた、コンクリート製の水道橋の遺構があります。1960年代から70年代にかけて建設されたこの水道橋の公式の目的は、阿権溪谷を経由して近隣の集落に真水を運ぶことでした。機転のきく中学生たちは、この橋の細い両端を歩き、学校に向かう長い登りの道のりの途中、心許ない近道として使っていたそうです。